



第 17 回例会

2022. 12. 7

今年度  
スローガン  
インスパイア

いつもわが身を鼓舞し、仲間の行動を激励し、人に感銘を与える

会員 67 名中	45 名出席	出席率 67.16%
修正 52 名出席		出席率 77.61%
		メイクアップ 7 名

WEBSITE!

イマジン  
ロータリー

例会場 クーラクーリアンテサンパレス 福島市上町 4-30

開催日 毎週水曜日 12時30分~

会長 渡邊 正義

幹事 穴戸 隆司

## 会長挨拶 渡邊 正義 会長



吾妻の山もそして安達太良山も完全に冠雪しました。冬ですね。皆様も体調を崩さぬよう注意してください。先週の金曜日はソロプチミストの例会に行っていました。女性版ロータリーといったところですかね。また今週の日曜日は佐藤正道ガバナー主催（ホスト：福島ロータリークラブ）の右近八郎ガバナーエレクト国際協議会壮行会に行っていました。どちらの会も盛況でした。

セブロータリー90周年記念式典出席に参加された林会員、菅野会員、笠会員大変お疲れでした。時差ぼけは大丈夫でしたか。またその際にはいろんな施設を視察されたようですが、詳細は19回例会で詳しくお聞きしたいと思います。

藤橋会員におかれましては、この度は旭日双光章受賞大変おめでとうございます。（叙勲受章者は、武藤正隆会員、渡邊和裕会員、藤橋進一郎会員の3名です。）福島南ロータリークラブにとっては本当に良き事でした。後でお話をお聞きしたいと思います。50年以上の長きにわたっての業界発展のために寄与されたことが認められたという事ですね、本当におめでとうございます。また本日は御二人の方にスピーチをお願いしております。大野順道会員の「おかげさまで、今私はここにいます」の題で、また清水武会員のスピーチは「還暦過ぎの青春譜」という題でのスピーチです。どんな内容なのか楽しみにしたいと思います。

で、今私はここにいます」の題で、また清水武会員のスピーチは「還暦過ぎの青春譜」という題でのスピーチです。どんな内容なのか楽しみにしたいと思います。

## 旭日双光章受賞のお祝い金授与、受賞スピーチ 藤橋 進一郎 会員



この度、旭日双光章の拝受にあたり、会長はじめ皆様から暖かい祝意の言葉をいただきまして、心より感謝申し上げます。

来年には、当社創業以来138年を迎えますが、小規模企業で基本的に会社存続と社員の支えがあったからとっております。

今日まで多くの役職につき、皆様からの教を頂きながら、組合や組織を通して地域活性化のために意見を述べさせて頂き、中小企業団体中央会を通じて行政と多くの課題に取り組んで参りました。

福島南ロータリークラブに入会させていただき早21年、会員の皆様から学ぶことも多く、自分の人生観を省みる事もしばしばあり、自己研鑽の場でもありました。

改めて、今日この場をお借りしまして、衷心より厚くお礼申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

## 米山奨学金授与

う しゅうれい  
千 秋麗 さん

奨学金のご支援をいただき、ありがとうございます。皆さまのご誠意に応え大事に使わせていただきます。米山奨学生に選ばれ、残り3ヵ月で卒業となりました。初めてここに立ってスピーチした時はとても緊張して足が震えたことを覚えております。そして、毎回、奨学金授与式でどのようなスピーチをしたら良いかという事にも悩んでいました。しかし、私は会員の皆様の素晴らしいスピーチを聞いて、とても勉強になりました。この素晴らしいスピーチをもっと勉強させていただき、成長していきたいと思っております。残り僅かな奨学生生活と大学生活を大切に過ごしていきたいと思っております。



## ロータリーの友の時間

ロータリー情報教育委員会 一條 浩孝 委員



今月は疾病予防と治療月間になっております。ジュニア・ジョーンズR I会長からもそれに関連したメッセージが出されております。縦組み5ページをお開きください。ジョーンズ会長は8月にザンビアを訪問し、ロータリーのリーダー達と会って、そこでマラリアに感染したことがあるかと訊ねたところ、全員が感染の経験者だったのでそうです。現在も多くの開発途上国においては主な死因の1つになっているようですが、この方々は治療を受けられただけ、まだ恵まれた皆さまだったようです。ジョーンズ会長が小さな農村を訪れた時、ティモシーという女性とお話をしたそうです。ティモシーさんによると、数年前に息子がマラリアに掛かってしまい、その時は8キロ離れた診療所へ自転車で駆け付けなければならず、その子を背負って、自転車を漕いでいた時に、息子の足が冷たくなって、小さな体から力が抜けていくのを感じたと言います。手遅れだったそうです。ザンビア滞在中には同じような話を何度も聞いたそうですが、それでも希望はありますとジョーンズ会長はおっしゃっています。「マラリアの無いザンビアのためのパートナー」というプログラムが大規模プログラム補助金の対象に選ばれ、人々の命を救っているということ

です。大規模プログラム補助金というのは、既に成果を実証しているプログラムに対して、より大規模で効果の高いプログラムを実施するために、長期的な活動資金を提供するもののようです。疾病を予防するあるいは治療するためにロータリーの基金が生かされており、是非とも成功して欲しいと思っております。ただし、残念

でならないのは、こうした活動のほとんどがあまり人に知られていないという事です。ロータリアンであってもロータリーの友を読まなければ知らないままでしょうし、社会一般の方にとっては尚の事だと思います。

伝えるということは本当に難しい事だと思いますが、人に伝えることに関する内容も掲載されております。縦組み 20 ページですが、丸亀ロータリークラブの横田龍男さんが、ロータリーを一言で説明するということに対して質問されておりますので、少し紹介してみます。自分の言葉でロータリーとはこうだと言えるようになると、人から「ロータリーとはなんですか」と問われたときも慌てることなく答えることができます。普段から考えていないと「うーん」となり「奉仕する団体です」と差し障りの無い言葉でお茶を濁すこととなります。ロータリーにはいろいろな側面がありますから、どの面からロータリーを語るかにより、世間の見方は変わります。自分の言葉でロータリーを説明することが、地域社会へのロータリーの広報に繋がり、ひいては、会員の増強につながります。前段のザンビアの話もそうですが、様々なロータリー活動を知って、自分の中で咀嚼して、自分のロータリーを説明できるようになりたいと感じております。

また、常々気にしていることがあるのですが、もう 1 つ大事な事があると思います。うまく伝える言葉が見つかったとしても、それを人に伝えなければ意味がないと思います。日本のロータリークラブが 100 周年を超えた今でも、公共イメージや認知度向上に努めなければならないというのは、伝えていなかったからではないかと思っております。皆さんご存じかわかりませんが、Yahoo 知恵袋というツールがありまして、これでロータリークラブを検索してみると、予測変換されて「ロータリークラブとは金持ち」と出てきます。それだけ多くの方がこのワードで検索しているということだと思いますが、この時点で誤解されていると思いますし、好意的でない印象を受けます。さらに回答を読み進めていくと、肯定的なものは少なく、逆に辛辣なものも並んでいるような状況です。私たちは週に 1 回、こうして例会に集まっておりますが、閉ざされた空間ですので、一般の方に周知されている訳ではないと思います。それでも、ロータリアン以外にもこの例会を見ている人はいます。例えば、このクーラクーリアンテのスタッフの方、そして、裏方にいるアルバイトの方々です。自分のアルバイト時代の事を思い出すと、ちゃんとそこにいた大人達を見て、その人達を評価していたと思います。立派な人を見れば、将来はそんな人になりたいと思いましたが、逆の人を見れば心の中で軽蔑したりもしていました。アルバイトをしている時は黙っていますが、後々、ロータリークラブはこうだったと話すこととなります。ロコミというものは怖いもので、もしかすると私たちが話す言葉より信用されてしまいます。ざっくりとして計算になりますが、アルバイトの方が仮に 3 名いたとして、例会を年 40 回、全国 2200 のクラブで聞いたとすれば、年間で延べ 26 万 4 千人が聞くこととなります。これはロータリークラブの全会員の 3 倍の数になります。私達のクラブでは、会員増強委員会の皆様が苦勞してオープン例会を開催し、その時に 10 名ほどの方がいらっしゃいましたが、その何万倍の方が実はロータリークラブの例会を、全てではなにしても見ているという事になります。10 年で 2240 万人です。この数は決して無視できない数だと思っております。アルバイトの方の数としては正確ではないにしても当たらずしも遠からずという数字かと思っております。この会場は不特定多数のレストランとは違って、お客様は全員ロータリアンしかいない会場です。良きにつけ悪しきにつけ、どんな評判でもロータリークラブとしての評判に直結します。外へ向かって情報を発信しても、聞いていただくのはなかなか難しいのですが、そうした努力を継続しつつも、まずは日ごろから例会場での振る舞いや言動、そして例会そのものの質を高めていくという努力が必要なのではないかと思っております。「バッチは見ている」という言葉もありますが、「バイトは見ている」でありまして、むしろ私たちの例会を見たアルバイトの方たちがいつかロータリークラブの例会に会員として参加したいと思っていただけるように在りたいものです。

最後に、縦組みの 15 ページ、私の 1 冊という中に当クラブの大橋パストガバナーが「寛容の扉を開く～矢吹ロータリークラブと私～」という記事を投稿しておられます。福島県の中通り南部に位置する会員 10 名程度の矢吹ロータリークラブの女性会員が、東日本大震災を乗り越え、自分の半生を通し、真摯にロータリーを、人を見つめ、「ロータリーの寛容と奉仕」を自分に問うていく 1 冊、クラブ会員数は少ないながらも個々の会員の意気の何と高いこと、単なる自叙伝を超えた 1 冊と言えるということで紹介したいと思っております。是非、機会があればお読みいただければと思います。また、私もそうですが皆さんの憧れ「ピンピンコロリと亡くなる食事」等、とても面白い内容がたくさん掲載されておりますので、ロータリーの友を是非一読いただければと思います。



お話をする機会を頂きましたことに感謝申し上げます。私の名前は「よりみち」ですが、人生でも「よりみち」していると思っています。とんちで有名な一休さんの名前は「有漏路（うろじ）より無漏路（むろじ）に帰る一休み 雨ふらば降り 風ふかば吹け」という和歌を作ったことに由来しています。「人生は煩惱溢れるこの世から、来世までのごくわずかの一休みの出来事。雨が降ろうが風が吹こうが大したことはない」ということですが、私は、あちこちよりみちして生きていき、死んでからは道に準じているということで「じゅんどう」となることでしょうか。

私の話もあちこちよりみちしますので、ご了承ください。

ウサギ年で乙女座の私は齢（よわい）71（71歳）となりました。「下天のうちをくらぶれば、夢幻の如くなり」です。天界の時間と比すれば夢幻のように儂いものであるというように、アツという間の71歳です。その71年の中で、ロータリーに籍を置いて26年余り、学ぶことができ、また出会いと別れもありました。初めに鈴木実さんがロータリーに入る扉を開いてくれました。「人生の扉は他人が開く」でしょうか。「人生の扉は他人が開く」は福島県立医科大学長である菊地臣一先生が言われました。菊地先生は今年の2月2

日に75歳で亡くなられたという事で、ご冥福をお祈りいたします。

扉は開いていても、気づかない時や、そこに入らなかったのでは、得ることは何もないと思いますが、ロータリーに入ったことは、私の人生に多くのことを与えてくれました。私が会長の時、幹事をしてくださった、既に鬼籍に入られました金子親房さんには、大変お世話になりました。感謝しております。

シドニー国際大会に行っていました。オーストラリアのブルーマウンテンで、沖縄の石垣島 桃林寺の住職に偶然出会ったのにはびっくりしました。また、奈良・京都旅行も致しました。今年度、第二分区のガバナー補佐をされている網代智明様が、当時管長をされていた真言宗女人高野・室生寺や、渡利の仏眼寺の丹治日遠様が管長をされていた日蓮宗 要法寺、一休さんが開山した臨済宗大徳寺の真珠庵、妙心寺の会館での昼食、夜は祇園で一休みと、楽しい思い出を作ることができました。では社会奉仕は何をしたのかと言われそうですが、年次報告書の第43年の主な事業をご覧ください。

すべてがご縁だと思っています。大橋さんがガバナーになられた時、東日本大震災に遭った年ですが、ガバナーの扉を開いたのは博多さんと言えます。その扉に、福島南ロータリーの名誉をかけて入って行かれた大橋パストガバナーの決断と、その後の業績は素晴らしいものがあります。

11月6日に東京麹町ロータリークラブのローターアクトクラブと衛星クラブの結成認可伝達式に行っていました。第2580地区の若林英博直前ガバナーが迎えてくれました。東京ロータリークラブがある地区です。大橋パストガバナーの「ポリオ絶滅をロータリーが提唱したきっかけを作った東京麹町ロータリークラブから、一人もガバナーが出ていないのはおかしい」という言葉が若林英博氏がガバナーになることを後押ししたと思っています。すべてはご縁だと思っています。

さて、宇宙が誕生して138億年、地球が誕生して46億年、人類が誕生して500万年、文字を使う事ができるようになって5000年の今です。たった71歳の私ですが、おかげさまで、戦争の無い日本で、福島南ロータリークラブの2022～23年度の第17回例会場に、今、私はここにいます。まずは健康だからこそ、今、ここにいらることができると思います。時節柄、皆さまのご健康をお祈りいたします。

## 会員スピーチ

## 「還暦過ぎの青春譜」 清水 武 会員



福島南ロータリークラブの皆様、私は渡邊会長が会長になられた本年7月より入会させて頂きました清水と申します。職業は炭火焼 久兵衛、屋台や十八番、御肉園等を経営している居酒屋の亭主でございます。どうぞよろしくお願い致します。本日は会員スピーチを承り、大変緊張しております。

私は相馬出身でして、相馬市内の一小、向陽中、相馬高校と青春時代を過ごし、大学は神奈川大学を卒業しております。小学校時代からの同級生で同様の経緯でずっと一緒に友人が2名おりまして、そいつらと相馬高校入学時からバンドを組んで、大学でも一緒に音楽活動を楽しんでいました。その後も、それぞれ東京で就職した友人、相馬に戻った友人と友達付き合いを続けておりました。大学を卒業してから楽器は全く弾いてなかったのですが、ギターをやっていた友人が定年になり、親の介護のために相馬の実家に戻り、暇を持て余したのか、昨年8月頃に福島にきて「バンドを再開するから楽器を弾け」と急に言われて、40年ぶりにベースギターを買って、月1回相馬に行って練習を始めることになったのです。最初は3人で演奏を楽しんでいましたが、その後、サイドギターとキーボードの2人の先輩に参加して頂いて、5人編成のバンドになって、新

たな青春を只今活動中です。本年10月に相馬で音楽祭が開かれ、ヘタながら出演してきました。そんなことを会長に話したところ「福島南ロータリークラブのクリスマス例会にアトラクションで演奏して欲しい」と言われまして、恥ずかしながら演奏させていただくことになりました。その節はどうぞよろしくお願い致します。還暦過ぎの青春真っ盛りの清水でした。

## 12月誕生祝い

大堀 通宝 会員 (12月7日)

武藤 正隆 会員 (12月11日)



以上